

おおやまどうちゅうくりげのしりうま

#42 大山道中栗毛後駿足

作者：滝亭鯉丈（りゅうてい・りじょう 1777?-1841）

刊行：文化14年（1817） - 文政5年（1822）

※『江戸を読む』より転載

📖 解題

■ 内容

本書は浅草八丁堀に住む百福屋徳郎兵衛とその子分福七を主人公とする滑稽道中話である。「かの膝



[K97.64/2]

栗毛の驥尾につく」と柳亭種彦が序文で記していることから明らかなように、十返舎一九の「膝栗毛」を模倣している。

文化14年(1817)から文政5年(1822)頃に刊行された3編6冊から成る。大山参詣を背景にしているが、3編下巻に至っても大山には辿りついておらず、内容的には未完結である。当館で所蔵しているのは初編・2編のみである。初編の刊記には、鶴屋金助、丸屋文右衛門、加賀屋源助の名があり、表紙には連玉堂と記されている。

当館以外に国会図書館、國學院大學図書館、関西大学図書館、立命館大学アートルサーチセンター、厚木郷土資料館等で所蔵が確認できる。『大山道中栗毛後駿足』三編の翻刻と解説（鈴木圭一著）によると、当館所蔵本は「後印本で巻末に錯簡があり」とされている。なお、天保3年(1832)ごろに『大山道中膝栗毛』と改題・改刻し再板されている。

■ 作者

作者は滝亭鯉丈。本名池田八右衛門。文化末期から天保期の滑稽本作者であり、「花暦八笑人」「滑稽和合人」等の作品がある。前身については櫛

第5章 文芸・紀行

屋、乗物師、寄席芸人など諸説がある。人情本作者の為永春水が彼の弟だという説もあるが定かではない。墓所は文京区小日向の称名寺。

絵師は初編・2編は初代歌川国直(1793?-1854)。本名吉川鯛蔵、のち四郎兵衛。歌川豊国の門人で挿絵を多く手がけ、役者絵・美人画・風景画なども描いた。戯作者春亭三暎の弟である。3編は溪斎英泉(けいさい・えいせん 1790?~1848)が手がけている。

📖 本文を読む

<翻刻>

「栗毛後駿足」(『神奈川県郷土資料集成』第10輯 神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会 1983) [K97/46] [K08/1/10] [C3.3カ10]

『『大山道中栗毛後駿足』三編の翻刻と解説』上下 鈴木圭一著(『國學院雑誌』94(1)(2)抜き刷り 1993) [K97.64/15/1] [K97.64/15/2]

※「大山道中栗毛」(『落語家語作集 下巻(帝國文庫 第26編)』博文館 1910) [918/7/26] もあり(目次で作者は十返舎一とされているが、本文では瀧亭鯉丈となっている。内容は瀧亭鯉丈作のもの。帝國文庫を底本とする『十返舎一全集』の4巻[918.5/24/4]にも所収されている。

<影印>

「大山道中栗毛後駿足」(『膝栗毛文芸集成』第19巻 中村正明編集・解題 ゆまに書房 2014) [K97/168/19]

📖 参考文献

渡邊均「童戯人瀧亭鯉丈の研究」(『落語の研究』渡邊均著 駸々堂書店 1943) [779.1/4]

鈴木圭一「瀧亭鯉丈」(『研究資料日本古典文学』第4巻 大曾根章介ほか編 明治書院 1983) [910.2/112/4]

『『大山道中栗毛後駿足』三編の翻刻と解説』上下(『國學院雑誌』94(1)(2)抜き刷り 1993) [K97.64/15/1] [K97.64/15/2]

中村正明「解題」(『膝栗毛文芸集成』第19巻 中村正明編集・解題 ゆまに書房 2014) [K97/168/19]